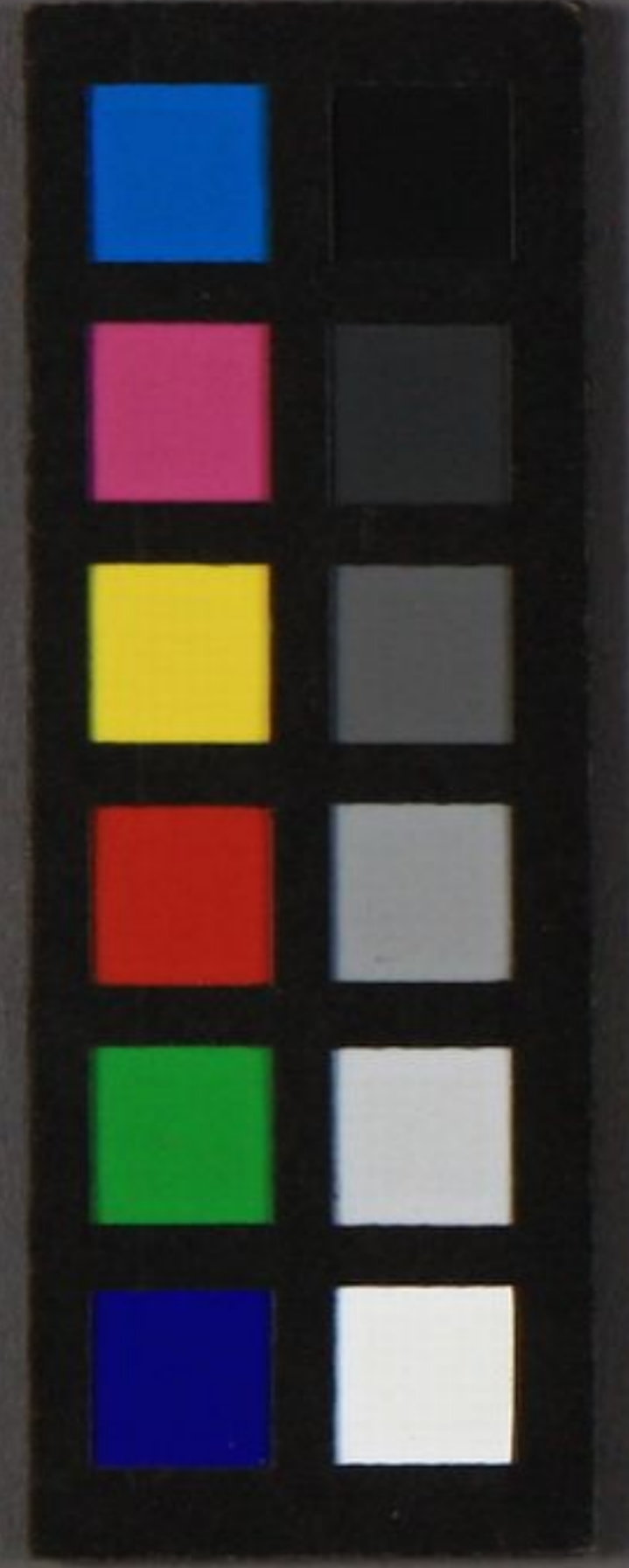


大和田建樹  
與好義同選

明治唱歌 第五集

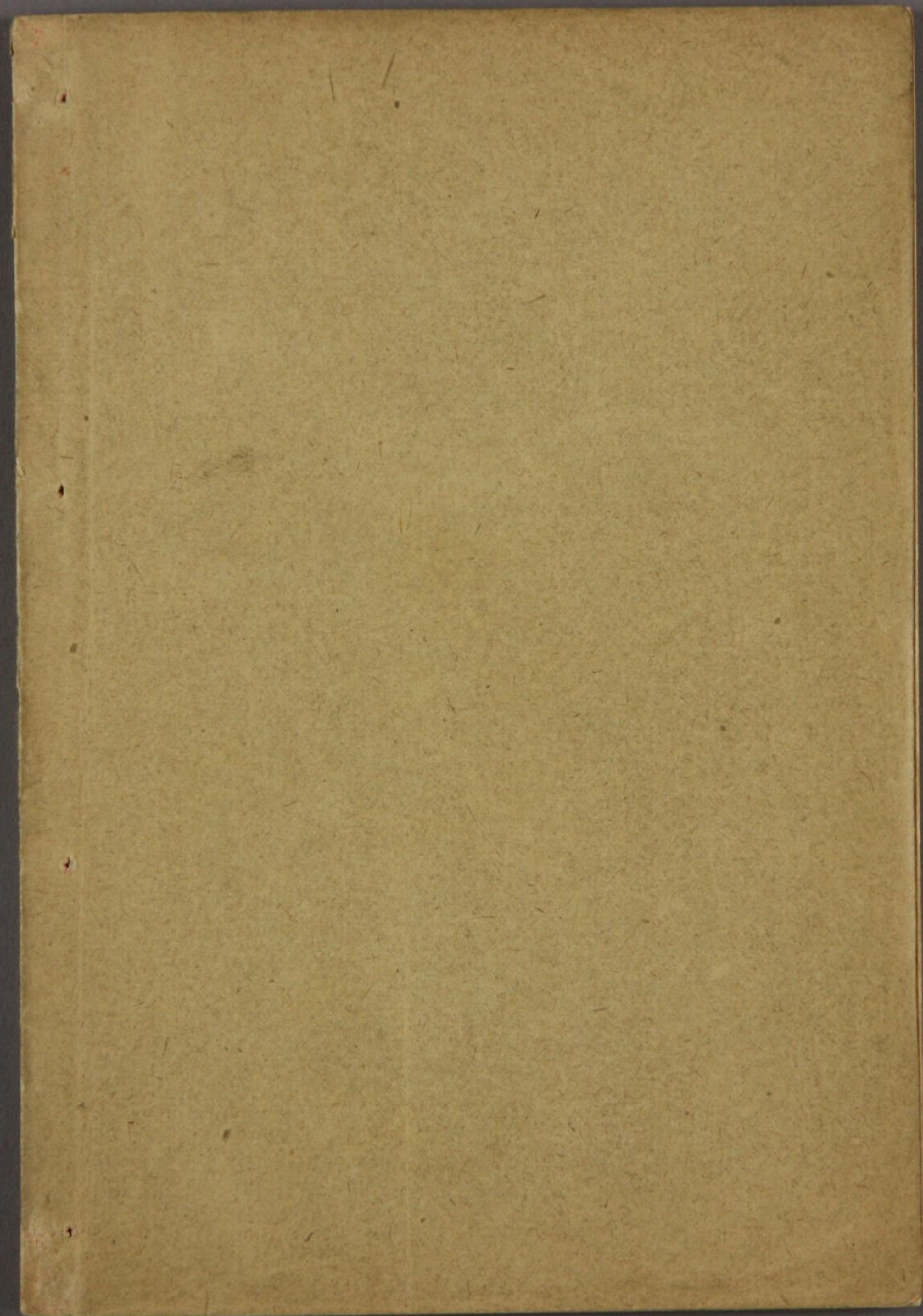
東京 中央堂發兌



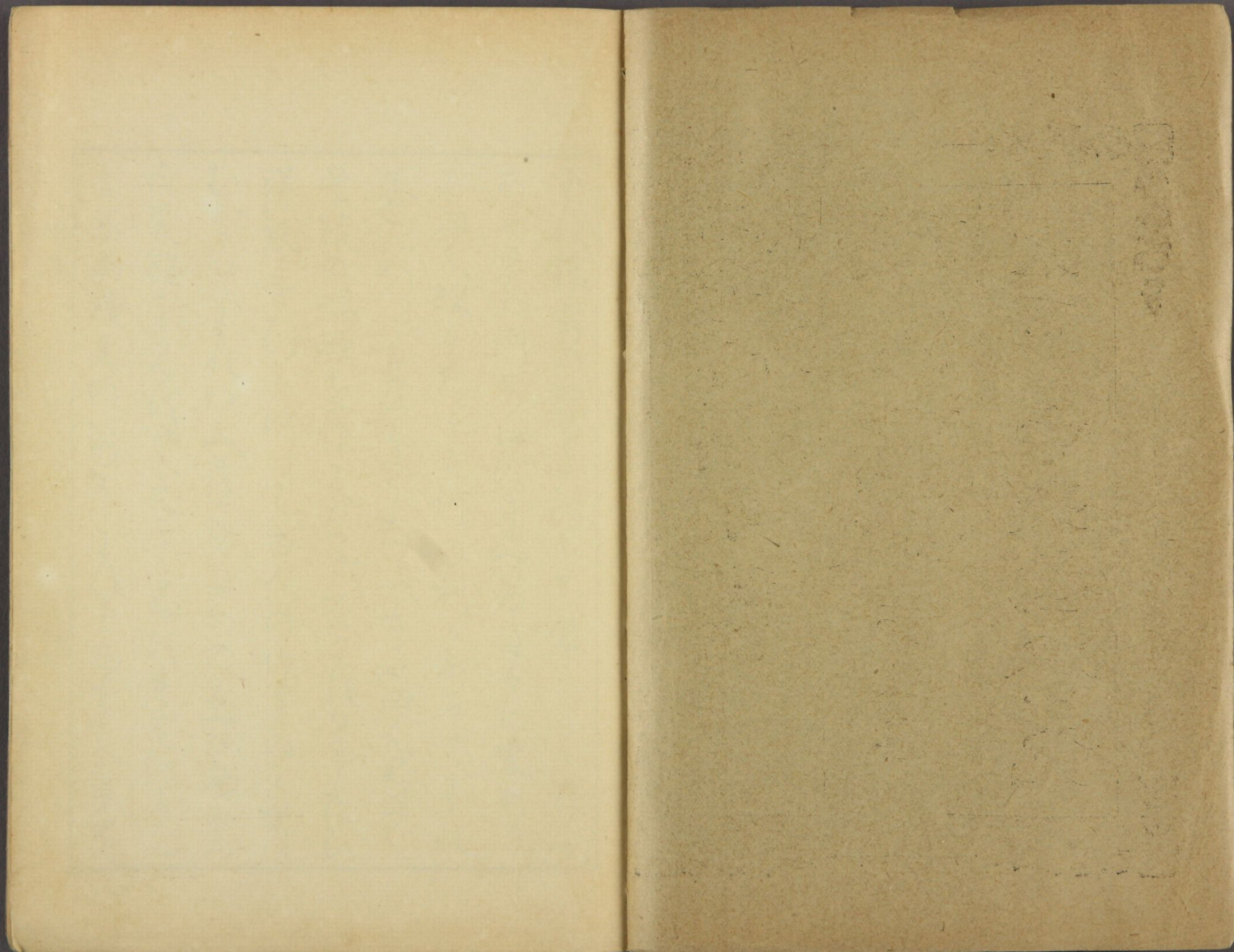


26.11.28











月小猿樂の謡をきめてきて常よりうたふ  
ある日を例る口びきみわらうらに客あり  
て曰く謡うたうて何の利あるやと  
答へばうたふまゝと曰く君よく  
学校の唱歌を作るなどしてこれさうたふ  
洋琴をひくべしとて古人の作きの樂  
むぎやふれいふ清身をかめ衣冠唐衣の  
肉裏雛をさるべやとて對ひきだいに  
も高尚優美の謡よりこれき忘まて身を



その時の大主人に、  
白の雲が、  
のびる、  
年が、  
一めん、  
唱歌は、  
唱歌を、  
愛は、  
も、

利の、  
一と、  
序、  
く、

明治廿五年五月の、  
窓の、  
建樹



凡例

一西洋のを取れるに作曲者の名なく、建樹の  
うゝに作歌者きゝるはぬ事、前集の如く、  
一上志行、过則承二君の勞を取らねもいつ  
もせざる。

明治唱歌第五集

目録

愛の聲	八頁
若葉の陰	十頁
月をいれを	十二頁
雀の子	十四頁
父の墓	十六頁
別きあや	十八頁
春の夜	二十頁
隠岐の夜	二十二頁
この一時	二十四頁



去年の友	二六頁
奥山	二八頁
山陵	三〇頁
あけの日和	三二頁
夢の外	三四頁
いざよひと	三六頁
瀧	三八頁
雪ふまふ	四〇頁
夏の風	四二頁
故郷の文	四四頁
夜網	四六頁

花ごころ	四八頁
めぐみ	五〇頁
花の玉	五二頁
きびき夜	五四頁
山を裂く響	五六頁
少年の春	五八頁
真紫めせ	六〇頁
ちぢりの花	六二頁
農夫の吟	六四頁



愛の歌

夕おほくつる心のそばを  
 負ひゆく業のたもとに  
 孫らかこむ櫂のついで  
 今こそひびけ愛の歌を

さも一舟あをくはぐた晴よ  
 まさし旅路たれくせん  
 もろくもまはるる門  
 いまさらひびけ愛の歌を

愛の歌

愛の歌

命を棹りやせはてし  
 せしむる海路あらはれ  
 むしめり權をまはあみき  
 いまさらひびけ愛の歌を

愛の歌

# 愛の聲

Moderato.

(1) ゆ ふしもこほるやまのそばを  
 (2) ト モシビア ラクス ゴキヤーミ ニーマ

ひこししはのたもさいかに  
 ヨヒシタ ビヂタ レカシラニーム カフルーツ

こむほたのかげに  
 マーノカ ゲハカード ニーイ マコソヒ ビケア

いこのえを  
 イーノコエ ハーア イーノウータハー

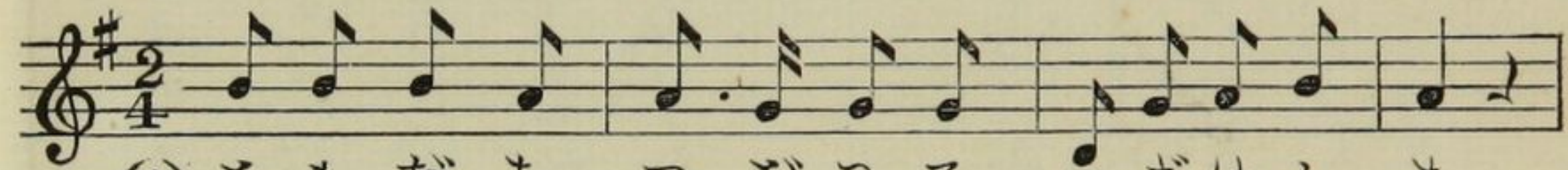


薄らぐ夕陽の影のまはるは  
桂の花の影のまはるは  
むらさきの影のまはるは  
あけくさの影のまはるは

友だちつどへていぢらふを  
あつたの影のまはるは  
あつたの影のまはるは  
あつたの影のまはるは  
あつたの影のまはるは  
あつたの影のまはるは

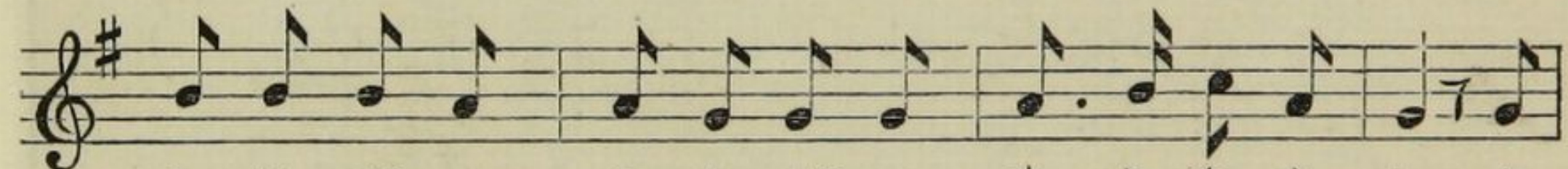
若葉の陰

若葉の陰



(1) ともだち つどへて いざけふを

(2) ヨミツル サウシノ シナサダノ



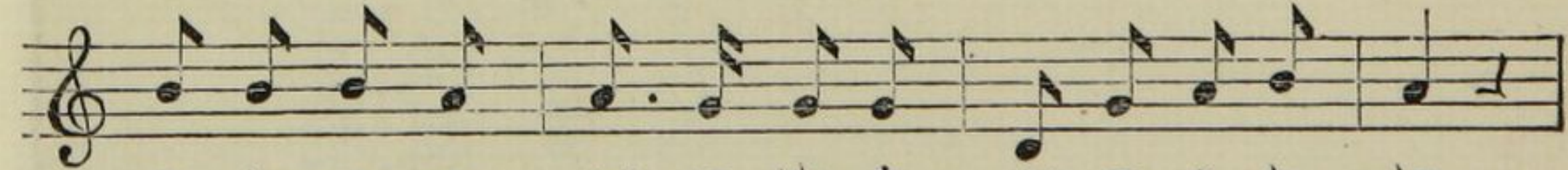
わかぢの こかげに あそびましな  
クヅシテ カタラン モロトモニカ



れつるむ かしのを たをとも にう  
ツラノハ ナチルカ ゼモウレシノ



たひてい ざいざく るるまでもこ  
コレルサ クラノエ ダモウレシム



ひーやへ だてぬま どのうちに  
カシノカ タミノケ フノマトキ



まなびし つきひを はやよとせ  
タスケテ ウタフカ ウグヒスモ

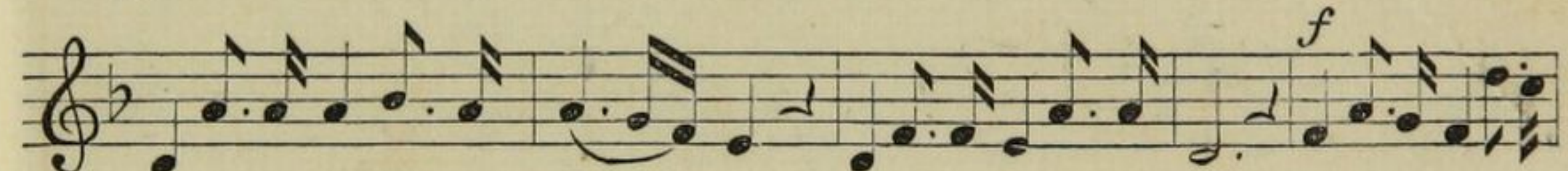


夜に志げぬる月うげしれだ  
 うたををもちて心はなげり  
 海京一づつに波もちるたねを  
 松糸ねむりて風もれきおわを  
 あめめちちやそら  
 布ひく雪間ふかぬるみれだ  
 こけきのにびりうと志まてやそら  
 萩らる野まきしちのけちちくおを  
 若きく芦田にかうのちちおを  
 あめめちちやそら

目三れを



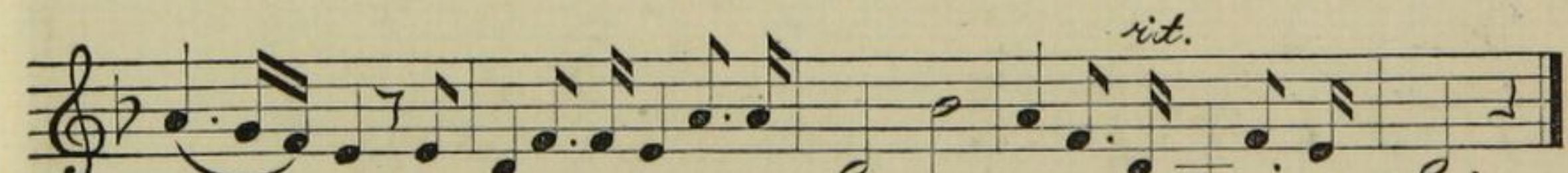
(1) かすみにしづめーるつきかげみれをー  
 (2) ヌノヒククモマーニカカレルミレバー



うきよをはなれーて ころもそらに うなばらしづ  
 コノヨノニゴリーモ ワスレテソラニ ハギチルズ



かーに なみもなきーよーを まつばらねむ  
 エーニ シカノナークーヨーヲ ハナサクアシ



りーてかぜもるきよはを ああめでてやそらに  
 ベーニカリノクルヨハ ヲアアメデテヤソラニ







月を教ふる言のまふと  
 ささえぬ脚指にちか白  
 これをみまひく言のまふと  
 ひびくぬねふたの  
 同ド火氣にまのままで  
 ちかひし父の今  
 月日いろもちかえられて  
 あゝ夜をさせぐ軒もちか  
 こややまごの静の静  
 あんきあひまの父の  
 眠をやぶるもはちか

父の墓

上真行作曲

父の墓

われををしふる ことのそーも き  
 われをみちびく ことのそーも ひ  
 こえぬの べに しもしろ し た  
 びかぬま つに かぜたり し  
 ちじほり げにきの ふまで か  
 たりしち ち そ いまここ に



別きあと

(1) はるーうぜ をー ふきすぎ ぬー  
 (2) ミツーカガ ミシテ モロトモ ニー  
 ながーれに のこる なみのを ま  
 ワターリー シーハ アノヲガ ハ  
 うぐーひす をー とびさり ぬー  
 カタールト モナク ウチツレ テー  
 ここーろに つづく うたのこ ゑ  
 ヤスーミー シーハ アノコカ ゲ  
 とかーれし きみよ わがむね をー  
 キミガヒタ ヒーニ カガヤキ シー  
 はなーれぬ うげを なほあれ に  
 エフーヒノ クモハ ナホアレ ニ

別きあと

小原甲三郎作曲

春風ハ吹きすぎぬ

ながれよの波のた

うぐひすハ飛び去りぬ

こころにつく歌のた

つゆの川 君よわが胸を

そめまぬ影をなほあま

水鏡 ーてもらとら

こころしハあはれ小川

語るこもれくもらつま

やけこころハあはれ

君のひまもろくちあ

夕月のやちちあはれ

別きあと



春の夜

(1) こよひも のどりに  
 (2) ユメヂモ ユタカニ  
 かすめ るあま つそーら  
 コテフー ヤネ ムルラーン  
 さくら の このまに  
 マクラ モ シヅカニ  
 ふけゆ くつき のかーげ  
 ヒバリ ヤヤス ムラーン  
 かみ た だ このよ を  
 カミ ハ タ ダ コノヨ ヲ  
 もの た も ひ な き み に  
 ノ ズ ミ ア ル ソ ノ ミ ニ

春の夜

今宵ものごころをさめし天つ  
 梅はのまにさゆく月影  
 こみちたぐり花を  
 もよおしきりかよ  
 爰路もゆるふ小蝶や眠る  
 枕もさぐりた雲雀や体も  
 こころをたぐり花を  
 のごころあるそけ身



舟うづきまゝに清遊あり  
 ゆふ日のいろも波の上  
 さのよもみまゝに清遊あり  
 こころもはるかに清遊あり  
 水と波の秋のさかきゆめを  
 せのぶらゝに清遊あり  
 舞人めして清遊あり  
 西井のよもみまゝに清遊あり  
 歌人めして清遊あり  
 清階の花のいろも波の上  
 こころの春は清遊あり  
 のぶらゝに清遊あり

# 隠岐の院

*With Feeling.* *f*

*p* (1) ふなうげきえーてあらしきむくゆ  
 (2) マヒビトノシーテキヨウイアリシク

*pp*

ふひのいろもなみのうへにき  
 モ井ノコトノコエハムカシウ

のふをたまをみかくくもぬこ  
 タビトメジテキヨクイアリシミ

*pp*

よひをうをるあまのとまやみ  
 ハシノハナノカゲハムカシワ

なせのあきのとなきゆめをし  
 がヨノハルノミユキナラバノ

*pp*

のぶらひとりとつきをいまも  
 ドケサイカニアマノワザモ



この一時  
 ぼる水のあゆみ  
 いまは夏の  
 ころたのむね  
 いまは夏の  
 ころたのむね  
 水ともあそべ  
 蝶もあそべ

自由の  
 水ともあそべ  
 蝶もあそべ  
 自由の  
 水ともあそべ  
 蝶もあそべ

この一時

♩

(1) はしるみづの あゆみ いま—こそ—なつ—よ  
 (2) ッバメッバノ ワレモ ウチ—ツレ—ユカーン

かろきてふの むせ いま—こそ—なつよ  
 ノバラシロク ニホフ ムカーヒノ—キシニ

ここちよし あなすすし えがたきをこのいちじ  
 シバフミテ ハナフミテ フエフカンフミヨマン

みづとも あそべ てふ—とも あそべ  
 ナツ コソ ワレヲ ジイウ—ノ サトニ







玉をまらばす梢の露  
 こがねいとよる谷間水  
 今宵の月夜に似るもれも  
 あゝこが友ちりたぐ山の秋  
 濼のひびきも浮きの外  
 本も静かに  
 ぬれをのぼるの月有る  
 みちの道に白雲の影

たぐ山

(1) たまを まらばす こがねの つーゆ  
 (2) タキノ ヒビキモ ウキヨノ ホーカ  
 こがね いとよる たにまのみづ  
 キキノ アラシモ シヅケキヨハ  
 こよひのつきよにに るものもな—しあ  
 タレヲカシノバンコノツキヲミ—テミ  
 あそがともなりたぐやまのあ—き DC.  
 ヤコハハルケシシラクモノヲ—チ



花開きそれあつら  
 いかた山雨にちか  
 椎さげびまむせが  
 ねきの海ちかちか  
 天津目を船上山  
 北山のくもれう  
 みよりの高きはいつ  
 まはるるまはるる  
 塔の尾のやま

いく春風が  
 大層そでふき  
 いふあきこせが  
 大層そでふき  
 たりふははの光  
 ねがひもあはき五百年  
 あまが来て花もちたらん  
 塔の尾のやま

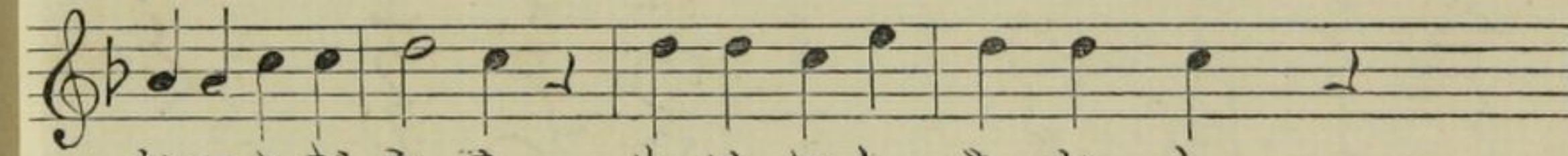
山陵

上真行作曲

山陵



(1) ちなひらき ちなれつるいくちるかぜぞ  
 しひさけび まつむせぶいくあきうぜぞ



かーさぎやま あめにしをれし  
 たーきのうみ るみにやつれし



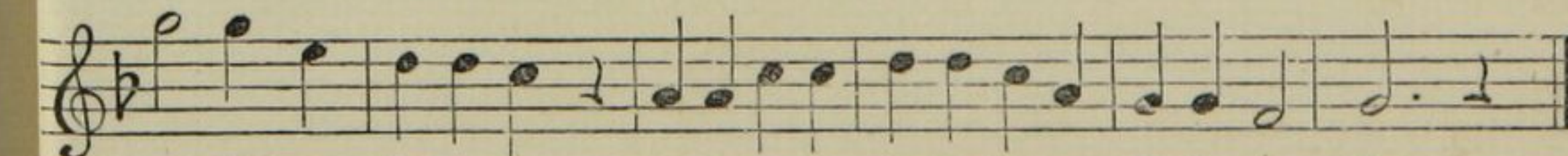
ねがみそでー ふきしも なーれーか  
 たがみそでー ふきしも なーれーか



(2) アマツヒヲ フナノヘ ヤマニテリカヘス  
 ミヨミノノ ターカキ イツヲアフギキテ



ミハタノ ヒカリ キタヤー マノ  
 ハーナニ ナキタ マスラー ヲモ



クモノウニト ネガヒシモアハレイホトセ  
 アツメテシノブ ターノヲーノヤーマ







夢の外

むよりの我宿のうらぬ故郷  
 日ぐ〜秋よぶ榎のちれも落〜  
 おやのきざしを見んがらぬよ

おれまた〜昨日の故郷  
 いまさらぬぬ後のすゑの  
 富貴もたれぬ名をわがはら

雲路〜昨日の我宿  
 月も風もちりてそぞろ  
 うれさあまうてわらぬ花  
 ひく〜のちも

夢の外

①む かのーと ぐやどーう はらぬーふ るさとゆ  
 ②コ ノマニーミ ソメシーキノフノーフ ルサトイ

りのふーう にーけ ふぞあーへ る ひ  
 マハサーメヌーユメノスーミカフ

ぐらしあ きーよぶえーのきのーこりーげに花  
 ウキモオ モーハシメーイヨモーネ ガーハジカ

やのゑーが 不ーみ んがたーめ よー  
 ミノメーガ ミーナ ガクトーホ クー



いざこれ

(1) し 不 ひ に う ひ 不 る あ ま の と よ  
 (2) イ ハ マ ニ エ ビ ト ル ア マ ノ コ ハ  
 (3) ち り ち い ろ ら せ ふ く た や て

ま ト リ て く さ ん い ざ わ れ も  
 ト モ ヤ の キ ラ ン ナ ミ ト ノ コ な エ し  
 ヲ ス み も あ ま ね き せ へ せ け  
 カ マ ミ コ モ タ ス ヒ ラ ノ オ キ ト ホ た に ク ひ  
 ち ぶ ち と ね を け ふ う せ て い ざ ら せ れ も  
 ち ぶ ち と ね を け ふ う せ て い ざ ら せ れ も

いざこれ

汐干し貝ほる海人の子よ  
 まづこそ暮ららんいざこれも  
 めぐさあまねき春風  
 袂を吹かせていざこれも

岩間へ海老も海人の子  
 こもさや聞くらん波の音  
 あひらもこひらの沖さかく  
 小舟をうらぶていざこれも

波うらいらせゆくはちて  
 あひらみの水脈も跡も  
 いまさら春よ磯づこい  
 さらさらけ遊らんいざこれも

いざこれ



せせせせいせいせいの ぬるい雪吹う  
 おもて 幾尋に 天乃川波  
 さらさら布を びりその手  
 うささ鼓ゆのさし手  
 虎や谷へ 吼え龍や 鳴かふ  
 ちりちりふきわたる 瀧の響を  
 さらさらの音を びりか  
 後々のさし手を びりか

瀧

瀧

(1) なる えいづち うちる はふぶき  
 (2) トラ ヤタニニ ホ エタツ ヤタタカ  
 う ねち ていくひろの あまのう はな  
 フ ナツ モナホサム キタキノヒビキ  
 みさら せそのぬのを うみのそ一のて  
 ハクダ ケソノイ ハヲ カミノチーカラ  
 にうて やそのつづみうみのそのて に  
 ニヌクカツノヤマヲカミノチカラ ニ



雪ふまん

(1) かすむよのつきもよし いざたちいでて  
 (2) オモシロノヨノサマヤ ハナレ又カゲヲ  
 (3) ふたとせもわすれつる ふえとりいでて  
 ゆきふまん こうげににふゆきふまん  
 トモシテ ヒトリヤウタヒフカサマシ  
 こころみん ひやしをくつにとらせつ  
 なさけあるえ るうぜえ とやねにこ一とを  
 ハナカユキユ キカハナ ヲチカタビトモ  
 やまびこよこころして ともしびうすむ  
 つたへきて まだみぬそなをめぐるちり  
 ヲシムラシの エがタキヨハノヒトトキ  
 とやざとの かちたのそらに このきくを

雪ふまん

雪ふまんの月夜  
 いざたちいでて  
 本陣小曲  
 遠音に琴を  
 雪ふまんの月夜  
 いざたちいでて  
 本陣小曲  
 遠音に琴を

辻則承作曲

二年とわのま  
 笛さうり  
 拍子を靴  
 遠音の



夏  
 今どあふ川の瀬  
 魚をこころを波をさぐる  
 蝶をこころをさぐる  
 波さたる草をさぐる  
 川をさぐる  
 自由さるる旅  
 自由さるる旅

# 夏の風

*Allegretto.*

(1) のべのこうげをしりすぎていまぞ  
 (2) ウヲヲトヘバナミモヲドルテフーヲ  
 あそぶかはのせーにはなよをどれ  
 トヘバテフーモマフーナミトタハレ  
 みづようたへここちよーくもろと  
 クサニウタヒカハラワタリヤマヲ  
 もーにこーこぞミガあーそぶにせ  
 コーエウーレヒナキオーノガタビ  
 いーまぞミガあーそぶひ  
 シーヤーナルオーノガヨ



夢もかぶそよ旅寝の床  
 あか風ふけて唇がひびく  
 こころいづれも故郷のまを  
 見るに色おのる千條の涙  
 意 父母のまを  
 そよそよそのうげ

故郷の文

上真行作曲

故郷の文

Musical score for '故郷の文' in 6/8 time. The score consists of seven staves of music with lyrics written below. The lyrics are:

10めもろずそふたびねのところに  
 あきうぜーふけてうりごーねさむし  
 こよひうれしきふるさとーのふみを  
 みるにもーれつるちすぢのなみだー  
 とひしちちそそわれしままに  
 そのとゑそのうげ

The score includes dynamic markings such as *mf* and *p*, and various musical notations like slurs and accents. The piece concludes with a double bar line.



波きざく風はしら  
 今ハ夜中つまももを  
 待つらんをわづの磯  
 のをらるるいざららるる

うらあけ一タ汐  
 うつる早の影もよ  
 いきりれうげこつ五  
 夜網ひきふいぢららるる

夜網

あひ子作歌

夜網

(1) くみあーげしー ゆふしほにー  
 (2) ナミスーゴクー カゼサムシー

うつるほしのうげもよしー  
 イマハヨナカ ツマモココモー

いさりのうげみついつつー  
 マツランハヤ ツーガイーソニー

よあみーひきーにいざさーらばー  
 カヂラーカハシイザサーラバー



花がすみ

すみきらくののののの  
 けさハあけてみかち  
 いでこのまじらわうたさ  
 ならきのみ花がすみ  
 雪をらきこむくじれ  
 ふれちりハ草にちり  
 ちよふの山眉  
 はるはいづの道へて

# 花がすみ

Moderato.

(1) すみ ねさくー ののあー さつゆー を  
 (2) エキ ラサーソー ヒテター マースダーレ

けさ えきけー てもちー かーらなー し  
 フキ シナーゴー リハクー サーニナー ホ

い で こ う ねー んー む ぐ た もー とー にー  
 ヤヨ カ ス ミー ノー アノ ヤ マー マー ユー

な れ し きー のー ふ の ばー なー が たー み  
 ハ ル ハ イー ツー コ ノ ミー チー コ エー テ



めぐみ

(1) つー ね に わ ひ れ ぬ う  
 (2) イー ね に カ ム ク イ ン キ  
 (3) だー ら ツ カ ウ ム ク イ ン キ  
 (4) オー モ レ ヒ ト ム ク イ ン キ  
 め ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ  
 の ツ の ヲ ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ  
 め ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ  
 の ツ の ヲ ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ  
 め ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ  
 の ツ の ヲ ム ミ ツ サ キ キ ヨ キ

めぐみ

はるのこころをまはるめぐみ

月かきよめをまはるめぐみ

めぐみ

あけのこころをまはるめぐみ

花はるの春をまはるめぐみ

めぐみ

めぐみ

めぐみ

めぐみ







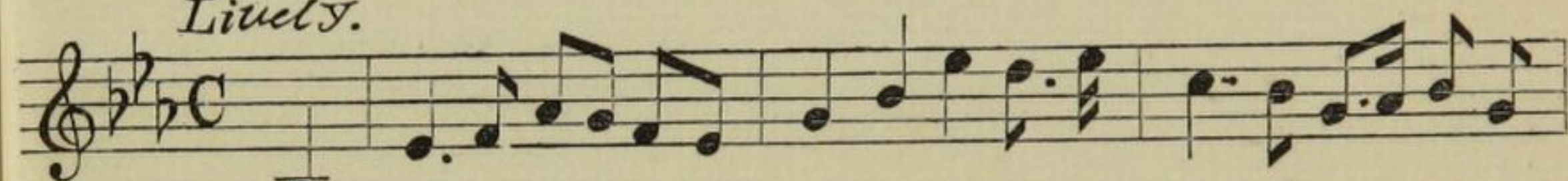




山を裂く響は漲る黒煙  
 いまさら味方はいくら  
 こゝろの民はどなたの  
 あゝ手をまもる心は鉄石  
 あれを見よ敵の軍旗のそよぶ  
 天をえよ敵の逃げゆくそのま  
 天をえよ敵の逃げゆくそのま  
 あゝ祖の神は我々の軍

山を裂く響

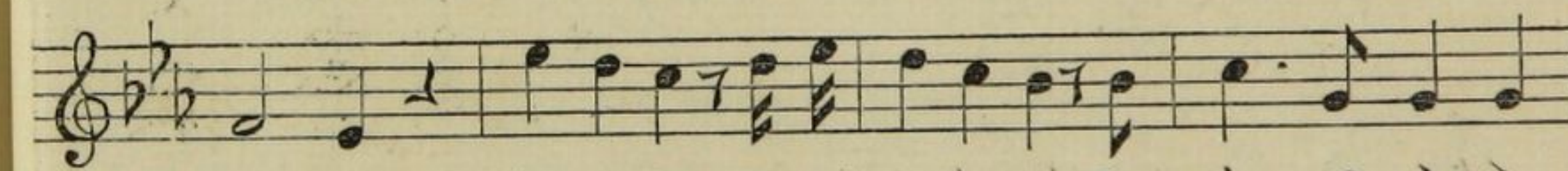
*Litely.*



(1) やまをさくひびきみなるくろけ  
 (2) アレラミーヨテキノゲンキノソノミ



むりいくさいまなりむくたもいくな  
 ダーレアレラミーヨテキノニゲユクソノス



らんわれもくにのたみひくべきも  
 ガタテンモカチドキヲコダマニカ



のうああこのてをまもるところをてつせき  
 ヘースアアミオヤノカミノミタマバワガゲンニ

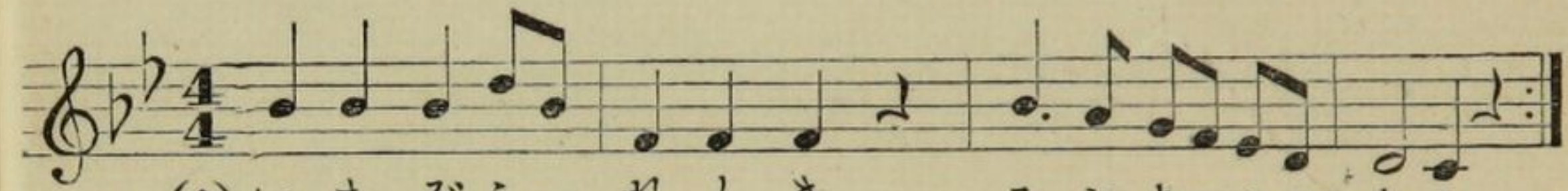


今ぞうららかな春の春  
 あそびや子どもしらぬ  
 うたやいれうららかに  
 たがそれ歌をかしすれ  
 子代

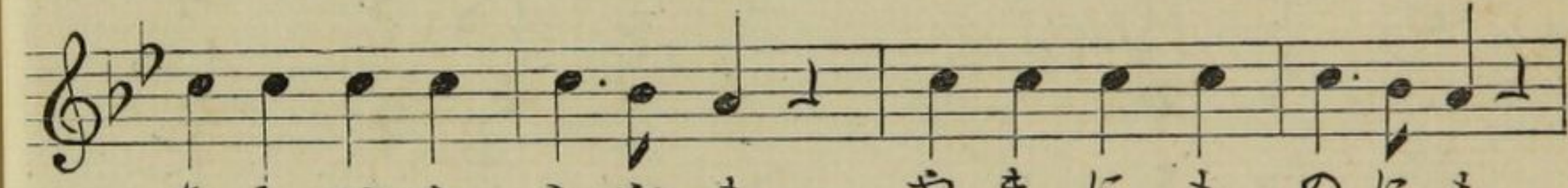
見ゆるるるるるるるるる  
 らのららららららららら  
 あれららららららららら  
 ららららららららららら  
 ららららららららららら

少年の春

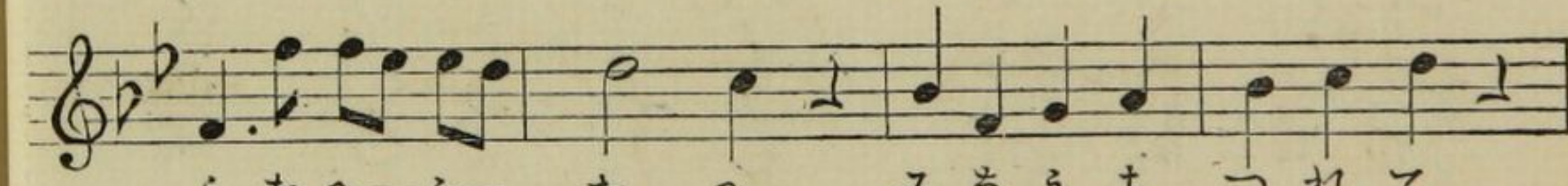
少年の春



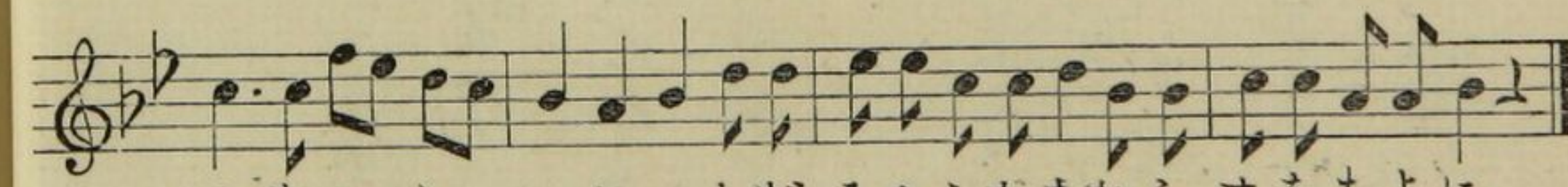
(1) いま づうー れー き      こがよーのー える  
 (2) ミユルターカネハ      カスミーノー オク



あうべや    こと    も      やまにも    のにも  
 ホノカニ    ハナ    モ      スキテゾ    ニホフ



うたへーうー    た    へ      みちうち    つれて  
 アレニークー    モ    モ      タチテゾ    マネク

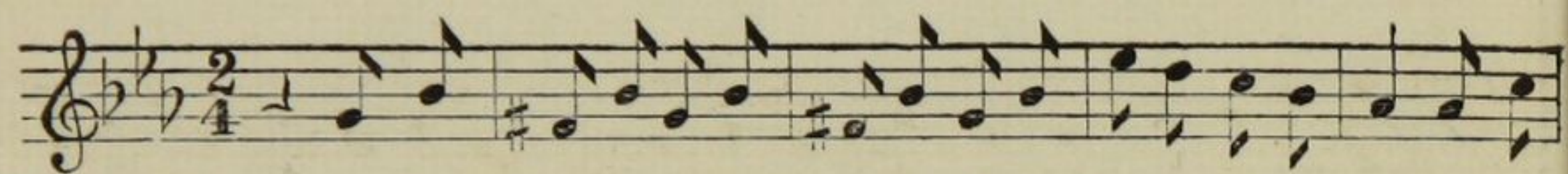


てをひーきー    つれて    ただろのうたを    からす    ちよに  
 アサヒーニー    ソノ    テタダ    ソノ    ミチノ    シル    ベハ    カミニ



真柴めせ

真柴めせ



つき うげもろ ともいた だきつれてあき



つゆまし ばにいた だきそへ ていざ いざいそ



がんなれ つるみちをきの ふをつがみとみえ

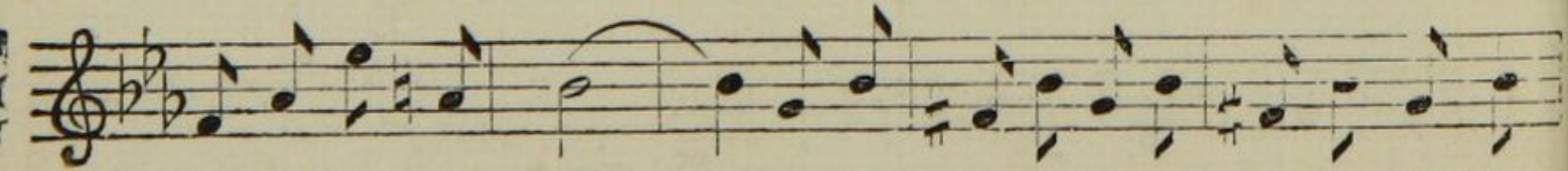


つるこず ゑ — ゑが 不をひら

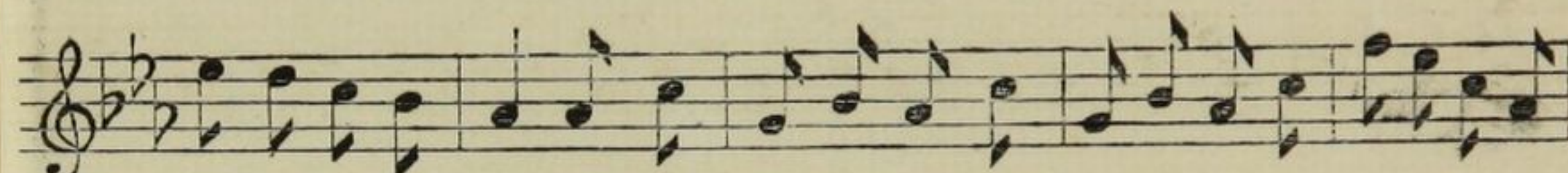


きてこれをぞねくるくる しきよのちりくる

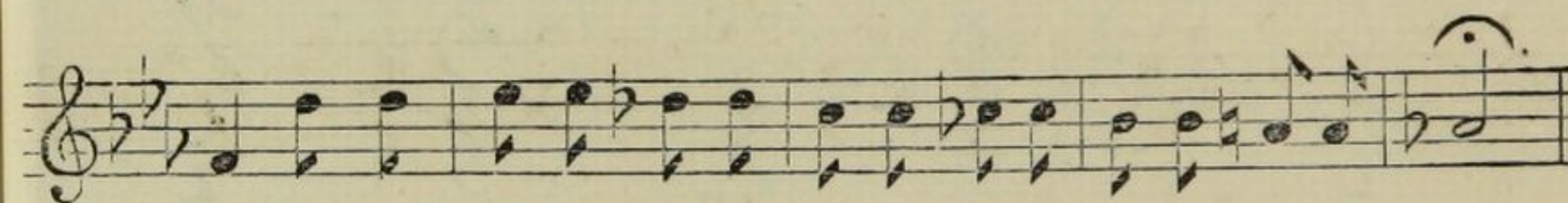
大和



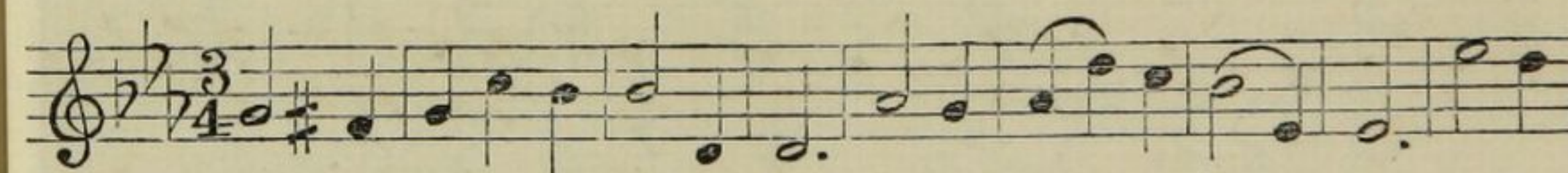
しきまき ぢ — いな ちがためにもたの



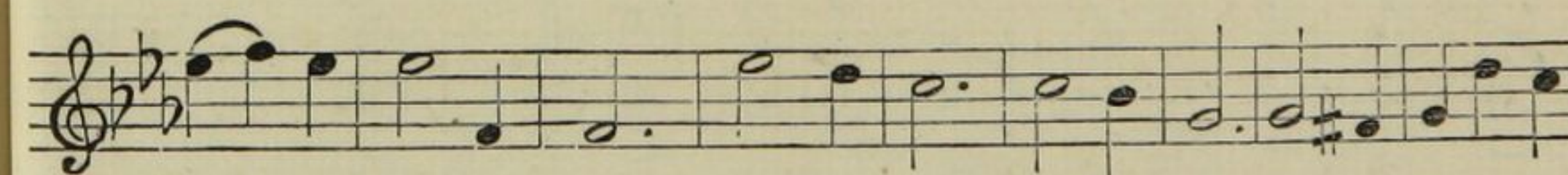
しきせり いいち ぢえひう げにうすみもはれ



てはる うぜのどけくはやまがそでに



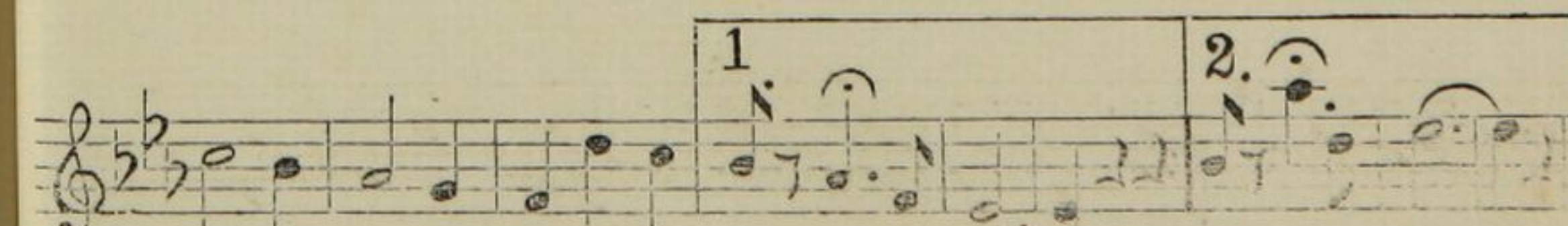
きのふのいちびとましばめせやまが



し—ばめせや けふも あすもたうねのち



なさへ たをう—そへ—てもてこ—し



たにま—のわらびめせや—びめせや—







まどりの花

まどりの花

き ば—み—ゆ—くく きをちうらにま  
 ほ—た—の—むあ きがなあそれい  
 ろ う す—くみもやせがれ て き  
 き—のこ るひと—をまあ それ

大井

ふたあふく物まの嵐  
 この夢はよ—ちがまも  
 ちがふれぬ花をまて  
 ちがふつるおんあしを  
 あらうつる海はたふれ  
 あらうみ—小襟の失せぬ  
 時—落つるまのまゆみ  
 身をうまてよまにう過ぐる

敵と見—日けひのりちへ  
 くらふはそれ命とちるる  
 親と見—まのまのまを  
 身をころはまてうまの  
 あらまそのまのま—兒  
 くられそれまのまのま  
 まのまのまのまのま  
 いぎねむれゆのたまへる  
 ちのま—



農夫の吟

農夫の吟

遠く門田の水  
 今ど時生いし山苗も  
 山吹の花をへつけて  
 静かなるわが世富ませり  
 知るや人山田の里の  
 春はこころを  
 夜をあけぬや花はさる  
 日ははきぬ雉子ハ谷  
 いざ子ぶと蹴りし麦を  
 刈りてこころ春板まはるな  
 孫も来ていしある時  
 あの葉笛ふたて遊べ  
 知るや人山田の里の  
 秋のあらしを

農夫の吟

奥好義作曲

あき秋よあがの波  
 あらしわが花のあつも  
 何を秋よ稲穂のあつも  
 うらまひくわの旗も  
 里神樂もあつも  
 後代の秋よあつも  
 あれう汲むゆけき年の  
 残がこころを  
 牛の背に妻の笑顔も  
 うらまの母の家あつも  
 玉すずれ吹きあつも  
 よもあつも  
 勝軍あつも  
 あつもあつも  
 賤がこころを



う急はのる早苗の上  
露をせて夕月をろり  
うたひつる算のいづら  
笠あしや人や待らん  
うかり火を夢路のまもり  
子とあやに猫はまろり  
都人ともや田中の  
きよらゆゆを

まに夕日うくれく  
何れく風をろり  
一すぢの小川のうわり  
新にちの原はくむれ  
きの中ハ我もはまもり  
稲くろくも見えけり  
都人ともや田中の  
里のゆゆを

あは川の芦間づら  
らひもまら牛ふれゆら  
あは岡のちうは本流  
あはもまら牛やひまら  
うのあは野辺の緑を  
こづる者のつたせぬ樂土  
まらとも都の外の  
しらた世界を

庭鳥を時入まらば  
孫と来て種まら別まら  
あはとわら事ハまら  
あはつみせふたがぬ雲の  
あはらばやちまらありぬ  
豆の葉に力を見せ  
まらとも都の外の  
秋の世界を

あす一日柴をうりつまた  
春まらうん外ふらまら  
そげのくりまらまららり  
雪よいぞ細きまらら  
いやまら得一門田の面  
あまら鶴いまらら友よ  
ゆるやん世界の外  
世界あまら



明治二十三年八月十日印刷  
 全 年八月十三日出 版  
 全 二十四年二月廿六日再 版

版權所有

定價十二錢



編者 東京小石川區金富町五十八番番  
 大和田建樹  
 編者 東京牛込區拂方町九番番  
 興好義  
 發行者 東京日本橋區通鹽町八番地  
 宮川保  
 印刷者 東京京橋區銀座貳丁目拾貳番地  
 宮本  
 發行所 東京日本橋區通鹽町八番地  
 中央  
 全 東京日本橋區通三丁目十七番地  
 有正館

高等師範學校 教諭大和田建樹先生  
 高等師範學校 助教諭興好義先生  
 同選  
 明明明明明  
 治治治治治  
 唱唱唱唱唱  
 歌歌歌歌歌  
 第一集 第二集 第三集 第四集 第五集  
 定價十二錢 郵稅二錢  
 定價十二錢 郵稅二錢  
 定價十二錢 郵稅二錢  
 定價十二錢 郵稅二錢  
 定價十二錢 郵稅二錢

高等師範學校 教諭大和田建樹先生  
 高等師範學校 助教諭興好義先生  
 同選  
 幼幼  
 稚稚  
 のの  
 曲曲  
 第一集 第二集  
 定價八錢 郵稅二錢  
 定價八錢 郵稅二錢

高等師範學校 教諭大和田建樹先生著  
 高等師範學校 助教諭興好義先生編  
 いさり  
 山めぐりの記  
 進 行 曲  
 定價十五錢 郵稅二錢  
 定價十錢 郵稅二錢  
 定價三錢 郵稅二錢



式部次官從四位勳三等男爵高崎正風先生作歌  
東京音樂學校秋論上眞行先生作曲  
●忠愛 將碁之盤 洋琴伴奏附  
定價三錢  
郵稅二錢

米國 ルーミス君原著 東儀季治君譯述  
上眞行先生校閱  
●小學唱歌教授法  
定價廿五錢  
郵稅四錢

上眞行先生閱  
鈴木米次郎君譯  
●音樂理論百々條  
全一冊  
定價廿五錢  
郵稅二錢

元老院議官文學博士中村正直先生選字  
高等師範學校助教諭與好義先生選  
●唱歌 第一集  
定價十錢  
郵稅二錢  
●唱歌 第二集  
定價十錢  
郵稅二錢

鳥居 枕校閱  
內田彌一 譯  
●音樂階梯  
全一冊  
定價二十錢  
郵稅二錢

文部省檢定濟尋常師範學校尋常中學校教科用書  
元老院書記官那珂通世編  
●支那通史 第一卷  
定價五十錢  
郵稅四錢

元老院書記官那珂通世編

●支那通史 第二卷  
定價五十五錢  
郵稅四錢

●支那通史 第三卷上  
定價四十錢  
郵稅四錢

●支那通史 第三卷下  
定價五十錢  
郵稅四錢

全部七卷以下續出

文部省檢定濟小學校教科用書  
宮川保全 愛知信元 同編  
●小筆算教授書  
全九冊  
尋常科用 四冊  
高等科用 五冊

○首卷定價十八錢 ○一二卷定價二十錢  
宛 ○三卷定價二十二錢 ○四卷定價二十錢  
五卷定價十五錢 ○六七卷定價各十八錢  
宛 ○八卷定價二十錢

●小筆算教授書答式 全三冊  
○一三三卷定價十五錢 ○四五六卷定價十錢  
○七八卷定價八錢

文部省檢定濟小學校教科用書  
那珂通世 秋山四郎 同編  
●日本地理小誌  
全二冊  
定價四十錢  
郵稅二錢

秋山四郎編  
●學生用日本圖  
正價拾五錢  
郵稅二錢

文部省檢定濟尋常師範學校教科用書  
華族女學校學監下田歌子編  
●和文教科書  
自第一帙 至第五帙  
定價各帙五十錢  
宛 郵稅各帙四錢



高等師範學校教諭大和田建樹編

●古文讀本

自第一帙至第六帙

定價各三十五錢宛  
郵稅四錢宛

●高等商業學校教員小嶋春書

●閑架結構摘要九十二法

全一本 定價廿錢  
郵稅四錢

●高等商業學校教頭成瀬隆藏著 全校教員小嶋春書

●新撰商賣往來

全一本 定價二十錢  
郵稅四錢

●東京美術學校 東京府高等女學校 共立女子職業學校繪畫教師結城正明著

●繪畫階梯 第一二三四

定價各四錢宛  
郵稅各二錢

●共立女子職業學校圖書科教員跡見玉枝著

●小學毛筆畫 全八冊 第一二定價各五錢宛 第三四五六定價各六錢宛 郵稅各二錢

●英國技術學士ゼ、エム、ウヰルソン原著

●理學士酒井佐保增補

●理學士實吉益美譯述

●	●	●	●	●	●
平	平	平	平	平	平
面	面	面	面	面	面
幾	幾	幾	幾	幾	幾
何	何	何	何	何	何
學	學	學	學	學	學
卷	卷	卷	卷	卷	卷
五	四	三	二	一	
全	全	全	全	全	全
郵	郵	郵	郵	郵	郵
稅	稅	稅	稅	稅	稅
二	二	二	二	二	二
十	十	十	十	十	十
五	五	五	五	五	五
錢	錢	錢	錢	錢	錢